



創造の新たな地平を切り拓く横浜ダンスコレクション2021 コンペティションのファイナリスト決定！

世界的な振付コンクールの日本プラットフォームとして1996年にはじまったコンペティションには、他者と社会に向き合い、身体と表現に向き合う振付家400組以上がファイナリストとして参加し、国内外で多彩な活動を繰り広げています。

このコンペティションは、振付家やダンサー等が構成、演出、技術のみならず新たな表現の可能性に挑む場であり、また創造性に基づく対話・交流のプラットフォームでもあります。

今回は6月1日から7月27日まで公募を行い、コロナ禍が世界的に広がる中においても12の国・地域から計121組の応募がありました。映像・書類審査会を経て決定した22組（コンペティションⅠ：10組、コンペティションⅡ：12名）は、2021年2月にファイナリストとして上演審査にのぞみます。

振付は身体と社会のつながりを探求して人間を見つめ直す実践とすることができますが、日々変容する同時代にあるつくり手の連帯や、地域や国内外のダンスコミュニティとの結びつきは今後益々重要になります。創造の新たな地平を切り拓く開催となることを願い、26回目の「横浜ダンスコレクション」を開催します。

コンペティションⅠ

上演審査：2021年2月6日（土）、7日（日） 横浜赤レンガ倉庫1号館 3Fホール

※横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに沿って対策に取り組みます。

■ファイナリスト（10組）

振付家名（出身地）『作品名』	プロフィール
いだ あさみ 井田 亜彩実 （富山県） 『species-種-』	 筑波大、大学院舞踊コースで舞踊学を学び、平山素子に師事。ベラルーシ国際コンペティションをはじめ、国内外で数々の賞を受賞。2013年-2018年イスラエルの<MARIA KONG>にて活動。<ARTopia!>ディレクター。ダンスハウス黄金4422レジデンスコレオグラファー。
さかた まもる 坂田 守 （茨城県） 『Symbol』	 <Tarinof dance company>主宰。2004年LABAN CENTER ISP修了。2013年文化庁新進芸術家海外研修制度にて2年7ヶ月パリに滞在。2014年18th Festival of Choreographic Miniaturesをはじめ、フランス、イタリアの国際振付コンクールにて第1位受賞。2017年SCF ATOM Theater招聘賞受賞。
しばた みわ 柴田 美和 （東京都） 『Oblivion』	 日本大学芸術学部卒業。2020年1月イスラエルに短期留学しGAGAメゾットを学ぶ。16歳から中村しんじ、川野眞子、木原浩太作品等に参加、大学卒業後は振付家柿崎麻莉子、柴田恵美等の作品に参加。2019年自作ソロ作品がNEXTREAM21にて審査員特別賞受賞。現在西沙織主宰、ダンスカンパニー<莖>に所属。

<p>たかはし もと 高橋 萌登 (長野県)</p> <p>『幻モキュメント』</p>	 <p>ダンスグループ <MWMW(モウイモウイ)>主宰。 幼少よりクラシックバレエを始め、2011年より<東京 ELECTROCK STAIRS>のメンバーとして国内外の公演に出演。2013年より創作活動を本格化し、これまで Rencontres Choregraphiques Internationales de Seine-Saint-Denis、Festival Fabbrica Europa等に招聘。近年は自身で制作するダンス映像作品にも力を入れている。</p>
<p>たか みずき 高 瑞貴 (富山県)</p> <p>『dodo』</p>	 <p>幼少より舞台、ミュージカル、映像作品に携わり、10代後半から作品創作を始める。<Lamama>、折田克子、Carmen Werner等、様々な人や作品に影響を受ける。お茶の水女子大学舞踊・表現行動学コース修士課程修了。横浜ダンスコレクション2018コンペティションⅡ奨励賞受賞、ダンスがみたい！新人シリーズ18オーディエンス賞受賞</p>
<p>ふくだ さとこ 福田 智子 (福岡県)</p> <p>『何処でもない、どこかで』</p>	 <p>2016年英国ランバールスクール卒業。<Rambert Company>他、英国、アメリカのカンパニー作品に出演。自身振付『About the leaves』をフランス、英国、イタリアのダンスフェスティバルで披露。『ういら売りせりふ』(平 雛子振付)で、韓国New Dance for Asiaフェスティバルへ招聘。福岡ダンスフリンジフェスティバルへも選出。</p>
<p>ヌ ヴ ス nouses (京都府)</p> <p>『nous』</p>	 <p>MISIA・大植真太郎・辻本知彦・梅田宏明・平原慎太郎等と仕事を行う。スイスの Groove' N' Move Festival 2017 に招聘。ストリートダンス世界大会決勝へ2度出場。 Kou: 原摩利彦『PASSION』ミュージックビデオの振付(出演: 森山未来)、塩田千春『魂がふるえる』展覧会場での<Organ Works>の作品へのゲスト出演の他 Rion: キッサコ(薬師寺寛邦)『般若心』ミュージックビデオに出演</p>
<p>ファイル ザヒド Fairul Zahid (マレーシア)</p> <p>『Draw-err 2.0』</p>	 <p><ASWARA Dance Company> (マレーシア)、<Seán Curran Dance Company> (ニューヨーク) のプリンシパルダンサーを歴任。コンテンポラリーダンスやバレエ、伝統舞踊など、多方面で数多くの作品を制作する多彩な振付家。BOH Cameronian Arts Awardsを受賞し、振付家ベスト15に選出されたほか、国内外で数多くの賞を受賞。現在はマラ工科大学 (マレーシア) にてダンス講師を務める。</p>
<p>フィットゥリー アングライニ Fitri Anggraini (インドネシア)</p> <p>『Pauses/Interval』</p>	 <p>2016年にジャカルタ芸術大学を卒業。同年、インドネシア・ダンスフェスティバルで振付作品『KABA』を発表。インドネシアのケセラ財団より名誉あるHibah Seni Inovatif Awardを受賞。Southeast Asian Choreolab (マレーシア) やアジア舞台芸術人材育成部門Asian Performing Arts Forumに参加。ジャカルタを拠点に活動するダンスコレクティブCircle Dance Labのメンバーおよび Bahasa Dance Projectの設立者。</p>
<p>ソン ソン ヒ Song Song-hee (韓国)</p> <p>『Naturally』</p>	 <p>振付家、ダンサー、ダンス教育者。様々な芸術分野で活動を展開。『Monkey Defense』で振付家デビュー。代表作には『In N Out』(2013)、『Sook-ja』(2015) などがある。ソウル国際振付フェスティバル2013で『In N Out』(2013)を初演。同年フィンランドの<Pori Dance Company>に招聘される。常に表現の限界に挑戦し、芸術的価値や方向性を更新している。</p>

※上記プロフィールについては本人の記述を尊重しています。

□審査員

岡見 さえ（舞踊評論家、公立女子大学文芸学部准教授）

北村 明子（振付家、ダンサー、信州大学人文学部准教授）

近藤 良平（コンドルズ主宰、振付家、ダンサー）

多田 淳之介（演出家、東京デスロック主宰）

浜野 文雄（新書館「ダンスマガジン」編集委員）

サンソン・シルヴァン（在日フランス大使館文化担当官）

グザヴィエ・ペルソン（アンスティチュ・フランセ横浜 館長）

エマール・クロニエ（フランス国立ダンスセンター 副ディレクター）

コンペティションⅡ 新人振付家部門 （対象：日本在住の25歳以下）

上演審査：2021年2月4日（木）、5日（金） 横浜にぎわい座 のげシャール

※横浜市文化施設における新型コロナウイルス感染症対策ガイドラインに沿って対策に取り組みます。

■ファイナリスト （年齢=2020年7月 応募締切時点）

振付家名（年齢／出身地） 『作品名』	プロフィール
<p>おなや りおん 女屋 理音</p> <p>(21／群馬県)</p> <p>『I'm not a liar.』</p>	 <p>1998年群馬県生まれ。お茶の水女子大学舞踊教育学コース在籍。2001年よりクラシックバレエを瀬山紀子に師事。2017年より坂田守、長谷川まいこに師事。<Fabien Prioville Dance Company>、<Tarinof dance company>、能美健志、黒須育海等の作品に参加。</p>
<p>たなか 田中 すみれ</p> <p>(23／愛知県)</p> <p>『夜は静かに鳥を喰らう』</p>	 <p>4才の頃より金澤志保バレエスタジオにてクラシックバレエを習う。京都造形舞台芸術学科卒業。在学中に寺田みさこ、ヤザキタケン、余越保子などに師事。また siro として創作活動始める。2017年より3年間黒田育世主宰<BATIK>に所属。2020年より名古屋にて活動始める。</p>
<p>たけうち はるか 竹内 春香</p> <p>(24／埼玉県)</p> <p>『AM0 : 01』</p>	 <p>幼少期からダンスを始める。16歳からヒップホップを始め、大学でコンテンポラリーダンスを学ぶ。現在は、保育士兼ダンサーとして、子どもたちに体を動かす楽しさを伝えながら、自身でも創作し発表している。2019年に結成したばかりのダンスカンパニー<YonayonA>主宰。</p>
<p>はら まさき 原 正樹</p> <p>(22／神奈川県)</p> <p>『ケイドロ』</p>	 <p>神奈川県出身。高校からダンスと出会い、横浜国立大学モダンダンス部を経て、現在広告サラリーマン1年目。広告を通じてダンスのエネルギーを世に伝えるべく奮闘中。Nextream21 in Rikkoukai 2019 一般部門最優秀賞、ART.M in 富山 2019にて特別賞受賞</p>
<p>こばやし もえ 小林 萌</p> <p>(24／東京都)</p> <p>『ON AIR』</p>	 <p>5歳から始めた空手で初段をもつ。13歳からダンスを始め、身体表現の世界に魅かれていく。在学中に渡邊華蓮と<odd fish>を結成。国内外で自身の振付作品を発表し、あらゆる表現の可能性を模索している。横浜ダンスコレクション2020 コンペティションⅡファイナリスト</p>
<p>きむら もとこ 木村 素子</p> <p>(23／千葉県)</p> <p>『super dry』</p>	 <p>日本女子体育大学舞踊学専攻卒業。6歳からクラシックバレエを始め、10歳からストリートダンスを始める。様々なダンスジャンルの作品に出演し、振付を手掛ける。</p>

<p>ほんま あいら 本間 愛良</p> <p>(23/新潟県)</p> <p>『巴』</p>		<p>日本女子体育大学卒。ART.M in 富山 2017にて特別賞と奨励賞受賞、WORLD DANCE COMPETITION in NiiGATA 2018にてソロC部門第2位、全部門の中で審査員特別賞を受賞。座・高円寺ダンスアワード II に参加。<IDIOT SAVANT theater company>等の作品に参加。</p>
<p>しまだ みきひろ 島田 幹大</p> <p>(20/兵庫県)</p> <p>『tangle』</p>		<p>京都芸術大学舞台芸術学科在学。2019年、心力(もとき)とパフォーマンスユニット<mahora>を結成。演出、振付経験は無し。</p>
<p>いとう しょう 伊藤 奨</p> <p>(23/埼玉県)</p> <p>『あからしまにとう、』</p>		<p>俳優・コンテンポラリーダンサー。尚美学園大学 演劇コース卒業。プリッシマ所属。学生時代に舞台表現を学び、創作活動も始める。幼少期より体育会系育ちで、水泳、卓球、新体操、ボルダリング等のスポーツ経験から身体能力を活かした表現が得意。</p>
<p>むらかみ いくま 村上 生馬</p> <p>(22/兵庫県)</p> <p>『胎内回帰』</p>		<p>1997年生まれ、ダンサー。9歳からダンスを始め、様々なジャンルを経て、現在、コンテンポラリーダンスに心奪われる。2019年、近畿大学(芸術学科) 文芸フェスタ公演演出、振付を行う。プレイヤーとして様々な舞台に出演する他、自己の作品創りにも力を注ぐ。</p>
<p>すぎもと まや 杉本 真耶</p> <p>(24/神奈川県)</p> <p>『皮膚の記憶』</p>		<p>3歳よりモダンダンスを始め稲川千鶴、中村しんじに師事。のちに神戸女学院大学舞踊専攻にてバレエ、グラハムテクニックを主に学び、振付家 島崎徹の作品を主に踊る。2020年3月神戸女学院舞踊専攻を卒業。現在フリーランスとして活動。</p>
<p>なかむら 中村 たから</p> <p>(25/岩手県)</p> <p>『セルフサービス』</p>		<p>5歳よりモダンダンスを始める。金田尚子に師事。日本女子体育大学に入学し、振付やコンテンポラリーダンスのテクニックを学ぶ。在学中は様々な振付家の作品に意欲的に参加。現在はフリーで活動中。</p>

※上記プロフィールについては本人の記述を尊重しています。

□審査員

伊藤 千枝子 (振付家、演出家、ダンサー)

加藤 弓奈 (急な坂スタジオ ディレクター)

ヴィヴィアン佐藤 (美術家)

浜野 文雄 (新書館「ダンスマガジン」編集委員)